

一三

明治廿九年十二月

薩哈連島在留本邦人發着元郵便物取扱方義母  
札幌郵便電信局長在任中願事解照會件

四十二

外務省

3-2321

0147

廿九年十二月四日接受 主管通商局

公信才五拾五號

三十三號

予島山松吉印人ニ其有るる印便物ノ旨  
ハ付寄一週ノ札帳印便物ノ旨長ク思存  
之旨同答致事ノ旨長ク思存之旨  
明治廿九年十一月十五日 松吉

哥路

領事館事務代印便物



外務省通志局長藤井三郎殿

在哥爾薩港本日領事館

明治廿九年十二月四日

手

郵甲才二四三号

魚目銀ナカレシ島在通本邦人之妻者スル印便物  
ニ付テハ從來當ら監督區内西征少樽兩向之於  
テ取扱来ハ未將來及考考上セテハ應之業ナク致ル  
テ本邦印便物可成印便物由度其煩度其及  
印便物也

明治廿九年九月三十日

札幌郵便局長吉田正吉

哥倫薩港領事館

一 事務領事 又世原少殿

一 ナカレシ島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
在哥爾薩港日本領事館

物ヲ差スル現令如何ナク方法ニ據ルヤ否ナク

此方法ニ據ルヤ否ナク其ノ方法  
一 全島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
便物ヲ差人ニ送テ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ

否否ニ送テ送ルニ現令如何ナク方法  
一 全島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
カ有ルニ見ルニ送テ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ

送テ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ  
一 全島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
所持セサルニ基クテ送テ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ

一 全島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
廢所廢ルニ其ノ他ニ送テ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ  
メニ送ルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ

一 全島内各地在通本邦人ヨリ其印便物便  
スルニ現令如何ナク方法ニ據ルヤ

古部ニ送付スル事トナスヲ得ルヤ否  
 一 全島内本邦人在留及入籍地右及各地右ノ距離  
 (地名ヲ記シテ前記ノ海老ノ) 右地右ノ距離ノ送付ノ  
 一 事情如何  
 一 幸収メテ右地ノ物件送付ノ得ル事トナリヤ否  
 一 全島内本邦人在留及入籍地毎ノ送付ノ地位  
 古部人ノ数人ト(戸數ノ送付ノ別人トス)  
 一 全島内本邦人在留及入籍地毎ノ送付ノ事トナリ  
 及古部ノ入籍人トス

在哥爾薩港日本領事館

3-2321

0150

歌雜牙冬格六輝

其の監督已の由故に種の中の上は度運送時故  
 印便物の因し得来考考ノ由に果古其印便物  
 事より別出シ九月二十日申中其一二二三の信  
 申事越ノ趣取系右ノ管に古(信)の管系印便物  
 波運ナリは印便物より申事印便物運送ノ方  
 信ノ及クルノ必致リ感シ明治十六年以來外務省ノ  
 管に之基キ領事役ハ其媒介者トナリ右其ハ公  
 用物郵板ハ内地ノ何トシテ印便物運送ノ印便物  
 事ハ印便物ニシテ印便物ノ事項ハ内地ニテ申事  
 事ハ印便物ニシテ申事トナリテ

明治廿九年十一月十五日

野口 亨 宣

在哥爾薩港日本領事館

領事事務代理野口亨 謹啓

札幌印便物代長吉田正秀 敬

才一 薩摩島林本印人ヲ申事印便物ハ其  
 六領事役ハ運送ノ方教来ノ敷又ハ其方ノ領事  
 事便ニ格定スルモノトシ之但拂ノ事印便物ノ格定  
 才二 口島林本印人ノ申事印便物ハ其  
 才三 口島林本印人ノ申事印便物ハ其  
 才四 口島林本印人ノ申事印便物ハ其  
 才五 口島林本印人ノ申事印便物ハ其

3-2321

0151

郵便物ハ未だ概ナシ如何トシバ其媒介者ニ致事致  
 ハ事ニ致長郵便切手ヲ所持シ人民ノ需ニ充テ居  
 バナリ掃切切手ハ多ク来シタルトキハ持込者ニ現金ヲ托  
 シ由信郵便履行行ヨリ即時ニ現金ハサシメタルトモナリ  
 郵便切手ナク下人ハ致事所屬ノ能カモ當哥長  
 ニ亦知人ノ南庄四ノアト世内ニ郵便切手ナク下リ  
 ナリトモ志者ト思礼ノ前記知人ヨリ未だ概ナ  
 未還身ノ持合困難ノ外致事致ノ取扱上困難ナ  
 ンリ等々トバ事島在留中知人ノ長元行書中内地日  
 村ノ郵便切手ヲ致事致知人ヨリ長崎ヨリ南庄  
 斯使陸田ニテ寄居セシキ事ナリ見出人ノ函致哥長  
 名義ハ公用物ナルカハ知事ガレ内地日村ノ郵便切手  
 貼用ニ由リ致事致ナカリシコトアリシ(致事致切手ハ陸田ノ  
 陸田ニ由リ致事致ナカリシコトアリシ)  
 在哥爾薩港日本領事館  
 ヲ以テ是ニ由リト心得郵便切手投入ニ由リ予又ハ函致  
 小樽ノ内リ陸田致事致タルモノト確信シタルモノカ陸田  
 知人ヨリ都府ニテ長崎ニ由リ致事致タルモノカ付テモ  
 寄居玉郵便切手ニ由リ世内ナリナリ而シテ是カカ者見出  
 ニ事者スルヤ寄居玉郵便切手ハ陸田陸田寄居(致事致  
 寄居ハ四  
 寄居ハ四)ノ不足概切手ニ致事致タルモノカ陸田陸田寄居  
 ニ事行者在島ナシバ行書ヲ交身シ不足概切手致事  
 少得ベキモ多ク人カ村人ノ事ナシバ陸田寄居ヲ陸田  
 是切手者スルモノト世内ニ由リ寄居玉郵便切手ナリ小樽  
 ナリノ郵便履行行ヨリ世内ニ由リ寄居玉郵便切手ナリ小樽  
 是切手退還返送ノ切手ニ由リ概切手セシカ世内ニ由リ  
 是切手故ニ斯ル片ハ是也爾長キ不足概切手陸田寄居  
 便白ニ由リ行書ヲ受領致事致陸田寄居又ハ見出人



遠距離に跨り、海を舟ハアレキセバ、其ノ里ヨリ東ノ海  
岸ノ傍ニモ一兩ノ以テ南ノ販海ノ時季間ハ新ノ外ニモ林  
若入込ト云リテ其間三四月毎ニ往リルコトナシバ、其  
帯ニ違フテ其間三四月毎ニ往リルコトナシバ、其  
ヲ除ク外ハ猶 又若地ノ距離ニモ多クモ日一ナリ地名甲子  
ハ可成ハ行旅ノ困難ニテ示スベシトアレド未同ノ一島地未  
夕洋細ノ製國ナシ洗ヤ其距離高ノ油責ニ於テオヤ若地  
間運轉ノ交通ノ現状ハ各埠頭ハ其ノ往來ノ便ハ船  
ヲ外ナラキ便ニ於テ船便ノ如ク船身トシテ往來ノ便  
トモ運轉ニモ一モソノミナラバ往來ノ便ニテハ未トモ路ナラ  
人衆ナク陸路ノ交通モ亦ナク便道云々ナシ  
才ハ 物件ノ便取ノ事情ニ於テモ、之ニ違ハルル様ナリ  
才七 口島内在前七人及ヒ林屋ノ遊中ノ往來者ハ其地

在哥蘭薩港日本領事館

明治廿九年十月現在

明治廿九年十月現在

帝國領事館 (12名)	男三人	女二人
哥倫薩商館 (13名)	男十一人	女三十五人
聖屬各埠頭商館 (1名)	男五人	男二人
クモナウ	男十一人	
キトウシナイ (西海)	男九人	
ナイボ (全)	男九人	
マウカ (全)	男十三人	女一人
テイシヤ (アニア 西内)	男三人	
モゴツイ (全)	男三人	
リヤトマリ (全)	男五人	男二人
ホロアレトマリ (全)	女一人	
ホロアレトマリ (全)	男四人	男十人
サアウイナバドガ (全)	男七人	男八人
チビサニ (全)	男四人	男四人



ナイオニナイ (左)	男五人	男六人
アイロツブ (東海各埠 モルビイノ島)	男七人	男五人
ノーホロ (左)	男五人	男四人
トシナイヤ (左)	男五人	男五人
オホサキ (東海 各埠)	男五人	男五人
フレバトマリ (左)	男六人	男二人
ワアレ (左)	男五人	男四人
マウレコタシ (左)	男五人	男七人
太什	男七十五人 女四人	男百零五人 女八人
カハ	口島内在留者却人のカハ(カ七)ニ揚ルル如ク商店ニ高 昔ノ方々居住スル外ニ悉ク退去ノ目的アリ 退去ノ間度済ニ退去者(去スル者)ヨリ見スル者 (其内カ七ニ揚ルル如ク退去者(却人)ニシテ其間ハ 僅ニカ七ニ揚ルル如ク退去スル者アリ)	在哥蘭薩港日本領事館
概シテ四月上旬ヨリ八月迄トス	退去者(却人)ノ者ハ十 月迄トス退去者ハ退去者ハ十 月迄トス退去者ハ退去者ハ十	
概シテ四月上旬ヨリ八月迄トス	退去者(却人)ノ者ハ十 月迄トス退去者ハ退去者ハ十 月迄トス退去者ハ退去者ハ十	
明治五年	男三千三百七十九人 女二人	男三千八百四十四人 女八人

明治二十九年十二月八日 記録課長

明治二十九年十二月七日 北草山  
同日一月八日 發遣

廿九十二七 往復部受

淨書 校正 淨

送第 二六六 號

主任

通商局長

外務省通商局長藤井三郎

馬代通商局長 田健彦 殿  
鈴木大蔵

郵政省 局長吉田正秀 直  
外務省  
接在己サリ 領事一照合付 扱不 鈴木領事 殿  
多額代理 手 扱 回 答 出 給 付 付 在 写 及 回 送  
以 案 該 郵 便 局 長 一 轉 送 付 申 示 付 出 給 付  
也 申 送 付 也

追 于 本 件 以 照 付 于 廿 五 年 函 令 分 四 号 規 定 申 在 外  
公 使 及 領 事 一 通 行 手 続 二 反 之 居 一 百 五 号 付 出 給 付  
而 於 各 号 之 様 目 郵 便 局 長 一 注 意 申 出 給 付  
而 未 付 申 出 給 付 也

明治二十一年八月

記録課長



明治二十一年七月七日 起草 山口

同日 八月八日 發遣

主任

通商局長



送第 32 號

外務省通商局長藤井三郎

在 東京

外務省通商局長藤井三郎

薩摩在島在島本邦人者着之郵便物云云

外務省 外務省

13  
41

之四番書物送寄客用十書付之... 他官社一紙之書行封書之... 凡之直接面行ト見做之... 張之録事規則第二十九條... 此之坊名ニ面行... 可成ト存心得止... 追之件ト... 示行...